

技術士 2 次試験に合格して



本間 稔規

(ほんま としのり)

勤務先

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
産業技術環境研究本部 工業試験場 産業システム部
〒060-0819
TEL 011-747-2981 FAX 011-726-4057
E-mail honma-toshinori@hro.or.jp

■ 専門：情報工学部門(コンピュータ工学)

1. 自己紹介

私は昭和 43 年生まれで、出身は日高管内門別町(現日高町)です。大学では原子工学を専攻し、修論は MHD 発電(電磁流体力学発電)に関する有限要素法を用いた数値シミュレーションでした。

就職では北海道職員採用試験(工業職)を受け、北海道立工業試験場に採用されました。採用時は道職員でしたが、平成 22 年に道立の農業、水産、林業、工業、食品、環境、地質、建築など試験研究機関が統合され、地方独立行政法人北海道立総合研究機構になったため、現在は団体職員です。工業試験場は転動がないため、同じ建物で働いて約 30 年近くになります。業務内容は研究開発と道内企業への技術支援であり、コンピュータビジョンや分光分野のセンシング技術、最近では AI に関する研究開発を行っています。

2. 技術士試験について

技術士という国家資格については就職する前から知っていましたが、日本の科学技術の最高位の国家資格であることから、就職したての頃はまだまだ自分には分不相応であり、技術と知識を蓄えてからチャレンジしようと思っていました。日々の研究・指導業務に没頭しているうちに、あっという間に 50 歳になってしまっていました。時が経つのは早いものです。そろそろ受けてみようと思って日本技術士会のホームページで試験日程を調べたらちょうど一次試験の申し込み締め切りまで後 1 週間であることがわかりました。年に 1 回しかない試験の申し込みにまだ間に合うということで、急いで申し込みました。普段の仕事では光学設計、電子回路設計、組込システム、機械学習などの技術分野に携わっていましたので、受験する技術部門を電気・電子か情報工学かで悩みましたが、IPA 関連の参考書などが充実している情報工学部門を受験しました。試験

勉強としては情報処理関連の問題集を一通りやっただけでしたが一次試験は 1 回で合格できました。二次試験は 4 月の申し込みから勉強を開始したため過去問の出題傾向と技術ノートを少し作ったところで時間切れとなり、答案作成の練習は全くできませんでした(実は新型コロナの影響で試験が 2 か月ほど延期されたのですが・・・)。結果、本番では必須科目で答案用紙をすべて埋めることができず、時間的に全く余裕がないことを実感しました。答案作成の練習の重要性を痛感しましたが、二年目も答案作成の練習時間が不足し、選択科目のⅢで字数が不足してしまい、不合格となってしまいました。三年目は高齢の父親が体調を崩し病院に入院したりするなどプライベートに時間をとられ、集中して勉強する時間がとれませんでした。今年もだめかなと半分諦めていましたが、たまたま自分の業務に近い問題が出題されたため、すべての科目で答案を書き切ることができました。その手応え通り、二次試験の筆記試験になんとか合格できました。12 月に実施された口頭試験も特に回答が難しい質問はなく、案外スムーズに終了しました。二次の筆記試験は中々ハードでしたが、三回目にしてやっと合格できました。

3. 今後の抱負

普段の研究業務でカバーしている技術分野は情報工学分野の中のごく一部であり、習得すべき技術はまだあります。技術士の名に恥じぬよう、自己研鑽に励まなければと痛感しています。また、技術士の試験を通じて、技術に関する専門知識以外に技術士コンピテンシーなどプロフェッショナルエンジニアとして持つべき資質を考える機会が得られたことは非常に大きかったと感じています。日々の業務に活用して、自分の能力をさらに高めていきたいと考えています。